

令和 8 年度 アクションプラン 2

重点項目	基礎学力の確立		
重点課題	「振り返り」と「読書活動」の充実		
現 状	昨年度は、相手を意識して話を聴いたり、自分の思いや考えを相手に伝えたりする力の育成を通して、基礎的な学力の確立を目指してきた。「話すこと・聴くことハンドブック」を活用し、聴き方のポイントを明確にしたり、発表後のフィードバックを意識させたりすることで、相手の話を最後まで聴こうとする態度が育ってきた。特に、グループでの話し合い活動においては、話し手の方を向いて聴く姿が多くみられるようになった。 一方で、自分の思いや考えを伝えたいという意欲はあるものの、考えが十分にまとまらないまま発言してしまうため、相手に分かりやすく伝えられない場面もみられた。その背景には、話す際の根拠が明確でない、語彙力の不足により適切な言葉を選んで表現することが難しいことなどがあると考えられる。 そこで今年度は、基礎学力の確立に向け、根拠をもって自分の思いや考えを伝える力の育成に重点を置き、「振り返り」と「読書活動」の充実に取り組む。 「振り返り」では、授業や活動の後に、自分の考えや学びを整理する時間を確保する。授業や活動を振り返る際には、振り返りの視点に「なにをした？（活動の振り返り）どうだった？（気持ち・結果）なんでだろう？（理由や考え）いいね！（友達のよかったこと）」を示し、何について振り返ればよいかを考えやすくする。そうすることで、一人一人が授業や活動についての思いをまとめられるのではないかと考える。また、児童が発表をする際には、「話すこと・聴くことハンドブック」を基に発表することで、根拠を意識して表現する力を付けていく。 また、多くの言葉や表現の仕方を知るために、読書活動の充実を図る。様々な分野の本に親しむことで、言葉への理解や想像力が育まれると考える。これらの力は、国語科のみならず、他教科の学習においても有用とされるものである。 「振り返り」と「読書活動」を相互に関連付けて充実させることで、自分の思いや考えを根拠をもって伝える力を育み、主体的に学習に取り組もうとする基礎学力の確立につなげていきたい。		
達成目標	自分の思いや考えを理由や根拠をもって伝えることのできる児童が 80% 以上。		
方 策		評価	
		中間	年度末
	毎時間自分の学びを確認し、自分の思いや考えをまとめる振り返りの時間を確保する。		
	語彙を増やすために、朝活動に読書活動を位置付け、本に親しんだり、本を読んで思ったことを交流したりして、幅広い分野の本に触れる機会を設ける。		
総合評価			

<評価基準> A…達成した B…ほぼ達成した C…あまり達成できなかった D…達成できなかった

取 組 状 況	
1	達成目標の実態
2	方策について
3	今後の課題と改善策